

体験からつながる環境への学び、 グリーン・ヒルズ小学校

尾形 望

おがた のぞみ
1990年岩手県生まれ
いわなび学園グリーン・ヒルズ小学校
信州大学大学院教育研究科を卒業後、
本校で教諭として5年目
長野ユネスコ協会青年部会員

私たちを取り巻く自然環境は、ここ数年で急激に変化している。昨年一〇月に日本に大きな被害をもたらした台風一九号が記憶に新しい。本校のある長野県でも千曲川の堤防が決壊するなど、各地で甚大な被害に見舞われた。また、今年の七月には九州地方を中心とした豪雨災害もあり、自然災害と環境問題のつながりについて、子どもたちだけではなく、大人も「自分ごと」として考えなければいけない現実が、実感を伴って眼の前に迫ってきている。

自然と共に生きる

1 グリーン・ヒルズ小学校

学校法人いわなび学園グリーン・ヒルズ小学校は、長野県長野市の標高一五〇メートルの飯綱高原にある全校児童二二名の小さな学校だ。「相互の関係を基盤にして、一人ひとりの自律性を育む」ことを教育目標に掲げ、小学生と同じ校舎の中にある中学校の生徒と共に教

育活動を行っている。飯綱山の麓に位置し、妙高戸隠連山国立公園の中にある本校では、教室の窓から四季折々の植物や動物の営み、移りゆく自然の表情を五感で感じることができる。この場所で学ぶ子どもたちは、小学校低学年からたくさんの生き物に触れ、観察し、興味関心の芽を育てている。この恵まれた環境の中で、人と人との関係、人と自然との関係に基盤を置きながら子どもたち一人ひとりの興味関心に基づく主体的な学びの追究を目指している。

2 プロジェクト

本校の特色ある教育活動の一つに「プロジェクト」がある。本校では、教育目標に掲げる「自律性」を育むために、この「プロジェクト」の時間を通して、計画・実行・振り返り・まとめ・発表という学びのプロセスを学習する。これまでも、その年のそれぞれのクラスや子どもたちによって毎年多様なプロジェクトが実践されてきた。例えば、生き物が好きな子どもたちによる校庭にビオトープをつくるプロジェクトや、建築に興味のある子どもがいるクラスでツリーハウスを建築するなどのプロジェクトが行われてきた。物づくりに限らず、クラスの仲間同士の関係性を深めたり、自分自身の成長や在り

方を探ったりといったプロジェクトもあり、そのテーマや内容はクラスや個人の興味関心を出発点に多様な広がりを見せる。子どもたち一人ひとりの豊かな個性を活かし展開される「プロジェクト」こそが、本校最大の魅力とも言えるだろう。今回はその中でも、「環境」というテーマに結びついたプロジェクトの実践である「りんご園プロジェクト」を紹介したい。

りんご園プロジェクト

1 はじまり

二〇一五年、当時の保護者からの紹介で、地域のリンゴ農家の方と出会い、リンゴ栽培に関心のある子どもたち数名を中心にその畑をお手伝いさせていただいていた。その当時は農家の方の指導のもとに、一年間の農作業を時々体験させてもらった。ある日、その畑のすぐ近くにあるリンゴ畑を「学校で自分たちの手でやってみないか？」と農家の方から声がかかった。リンゴ畑は芋井広瀬集落にある。そこは、高齢の農家が多く、土地も傾斜地のため一人で何本もの木を所有してリンゴを管理栽培していくのは難しいという。そこで、私たちはその畑